

「第1回 豊橋市都市交通計画検討委員会」議事録

○日 時 令和6年8月26日（月） 9時30分～

○場 所 豊橋市役所 東85会議室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○傍聴人 なし

○事務局 4名

〔会議資料〕

◆次第、配席図、出席者名簿

【資料1】・都市交通計画の改定に向けた進め方

【資料2】・計画の目的及び位置付け

【資料3】・現都市交通計画の指標の評価

【資料4】・個別推進事業進捗状況、施策状況からみた課題と社会的動向

【資料5】・市民アンケート調査実施概要（案）

【参考資料-1】・豊橋市都市交通計画検討委員会設置要綱

【参考資料-2】・豊橋市の現状

【参考資料-3】・上位計画・関連計画の整理

議 事

1. 開会

(委員長)

- ・本計画においては、既存の都市交通計画の良い部分を活かしながら、また、必要な部分を更新しながら進めていきたい。法制度の変化など、地域公共交通を取り巻く環境の変化を踏まえながら、取り組んでいくことが重要である。
- ・豊橋市では、市電の存在は貴重であり、そうした特徴も活かしながら計画を作っていけたらと考えている。

(副委員長)

- ・10年に1度の改定であるが、社会情勢や新たな技術が計画に反映されると思う。
- ・豊橋市では、公共交通の利用促進において既に先進的な事例も取り組んでいるので、そういった取り組みを反映し、より良い計画になればと思う。

2. 議事

(1) 都市交通計画の改定に向けた進め方について

- ・事務局より、【資料1 都市交通計画の改定に向けた進め方】の説明が行われた。

[質疑等]

(委員長)

- ・かなり密なスケジュールで議論していくことになるため、よろしくお願ひしたい。

(2) 計画の目的及び位置付けについて

- ・事務局より、【資料2 計画の目的及び位置付け】の説明が行われた。

[質疑等]

(委員長)

- ・交通関係の専門用語は複雑なものもある。本計画は市民向けの計画のため、分かりにくい用語等があれば、そのような視点でも発言いただきたい。

(委員)

- ・新しい移動手段として電動キックボードが示されているが、豊橋市内では検討されているのか。

(事務局)

- ・本市では、まだ普及している状況ではない。今後10年間の計画策定をするにあたって、状況を見極めていく過程と認識している。市でも産業部署で実証実験を行っているが、利用は限定されており、引き続き検討を続けていきたい。

(委員長)

- ・「様々な移動手段や移動サービス」には、現在の豊橋市では使われていない交通モードも書かれているが、10年間の計画ということを見据えて検討いただきたい。

(委員)

- ・総合交通戦略と地域公共交通計画の連携について、2つの要素を取り込み集約していくのか、それぞれ併存して残していくのか。併存する場合には、どういった位置づけとなるか。

(事務局)

- ・現行計画と同様に両方を兼ねた形を想定している。現計画では、それぞれの内容は明確に切り分けていない。まちづくりとしての交通戦略、市民の足を守る地域公共交通計画は、兼ねた形が良いのではないかと考えている。まちづくりという広い視点を持って、意見をいただきながら検討したい。

(委員長)

- ・自動車交通を考える総合交通戦略と、公共交通を考える地域公共交通計画を連携して一緒に考えることは、豊橋市の大きな特徴であり、大変重要である。一体的に扱える計画の特徴を生かして、作っていく必要がある。例えば様々な移動手段に自動車がないが、自動車の扱いも意識して計画づくりを進めてほしい。

(副委員長)

- ・国の動向について、地域公共交通活性化再生法の令和5年度改正点がポイントになると考える。3つの柱のうち、豊橋市で特に着目したい部分はあるか。

(事務局)

- ・それぞれが重要と考えている。特に自動運転やMaaSは市でも考えてきた部分であり、自動運転は国の採択を受けて取り組んでいる。濃淡はつけづらいが、10年の動きを見据えながら考えていきたい。

(副委員長)

- ・先進技術については、技術だけが先行することのないように、何のために取り組むか、市の交通まちづくり全体を考えて、方向性を計画の中にしっかり位置づけられると良い。

(委員長)

- ・目標年次は2035年頃であり、開通が先送りになった情報もあるがリニア新幹線の開通をどう扱うかも考えないといけない。少なくとも念頭に置いて、計画を考える必要がある。

(委員)

- ・市の最北部の住民にとって、市電は、めったに乗ることがなく、自動車を各自1台でなければ生活が成り立たない。計画の基本理念で「多様な交通手段を誰もが使い、過度に自家用車に頼ることなく生活・交流ができる都市交通体系の構築」とあるが、市中心部に特化した計画であり、疎外感を感じる部分もある。免許返納した場合、病院、買物どこにも行けない。地域のコミュニティバスも充実してきたが、充分とは言えない。まちなかだけでなく、市全体のことを考え、地域性も考慮した計画にしていきたい。

(事務局)

- ・現行の計画は市域全体を対象としているし、改定する計画についても市域全体で考えている。各地域においては、コミュニティバスを運行しながら移動手段の確保に努めている。交通手段が限られているエリアもあるが、市中心部や市外に行く場合には色々な交通手段もあるのではないかと認識している。自動車の扱いについては、依存しないことが大事で利用を否定するものではない。移動手段の維持・確保、または、活性化してくのかを固めていきたい。皆さんの意見を聞きバランス良く計画を策定できればと考えている。

(委員長)

- ・重要なのは、過度に自家用車に頼ることなく、ということである。また、地域のバランスを考え、自動車をかしこく使いながら、自動車に頼らずとも生活できる基盤が重要であると考え。

(3) 現都市交通計画の指標の評価について

- ・事務局より、【資料3 現都市交通計画の指標の評価】の説明が行われた。

[質疑等]

(委員長)

- ・目標の達成状況は厳しい状況である。ただし、利用者数に関しては、ほぼ全ての自治体が目標を達成できていない状況で、コロナ禍によるところも大きく、やむを得ないと思う。指標1-1の公共交通の利用のしやすさにおいて満足と感じる人の割合については、市民がどう感じるかということだが、目標が達成できていない。それを受けて結果の総括で次回に向けての流れをまとめている。

(委員)

- ・評価指標1-1は、豊橋市全体だと思うが、市中心部と郊外で分けて分析できると良いのではないか。議題5にも関わるが校區別に分けられたら良いと思う。

(事務局)

- ・詳細な分析はまだできていないが、委員の意見踏まえ確認していきたい。

(委員長)

- ・有用なご指摘をいただいた。結果の総括で「歩行や自転車通行・駐輪環境整備をさらに進める必要がある」と言及しているが、その場合には「どこで」という観点が必要であり、データをもう少しきめ細かく分析し次回の計画に反映する必要がある。

(副委員長)

- ・評価指標1-1は、公共交通を利用しない人も含まれており、どちらでもないという回答も含まれていると状況だと思う。また、評価指標2-2の歩行者交通量は、調査した日のイベントの有無によって、歩行者の通行量が変わってしまうと指摘されており、目標を評価できる指標になっているか、見直す必要がある。指標の数値の調査方法も含めて再検討する必要がある。

(事務局)

- ・地域ごとで利用される交通機関も異なり、それによって満足度も変わってくるため、指標をどうしていくかは今後検討していきたい。

(委員長)

- ・計画の評価をするため、指標によって結果がブレてしまったり、正しく評価されていないということもあるので、今回、評価指標2-2の中心市街地の休日歩行者通行量に関しては、公共交通施策が寄与しているか分かり辛いので見直すこととなっているが、他の指標も含めて今一度検討して頂きたい。個人的には、満足度という指標は好まない。人は、サービスが同じであれば、満足度は下がっていく特性があり、より良いものを求めるため、変化し続けないと維持できない構造である。民間サービスであれば満足度を求めるべきだ

が、行政サービスでは満足度を求めるよりは、不満な人がいないという状況を目指すべきだと思う。しかしそれを指標とすると分かり辛いので、検討する必要がある。困っている人を減らすという視点が行政サービスだと思う。

(4) 個別推進事業進捗状況、現状の課題と社会的動向について

- ・事務局より、【資料4 個別推進事業進捗状況、施策状況からみた課題と社会的動向】の説明が行われた。

〔質疑等〕

(委員長)

- ・個別事業は、ほとんど着手されているが、未着手のものについては、計画に位置付けていく必要がある。

(副委員長)

- ・p.2の事業4「バス専用・優先レーンの拡充」の取組内容に、終バス延長の記載があるが、間違いではないか。
- ・未着手の中には、社会情勢やそれぞれの事情等で実現・検討が難しいものもあるため、継続すべきもの、そうでないもの、別の方法等見直しが必要なものを、一度整理する必要がある。

(事務局)

- ・事業4については誤記である。渋滞する道路にバスの専用レーンや優先レーンを推進していくという計画がありその内容を記載しないとできなかった。訂正させてもらう。
- ・現行計画は幅広く記載しているところがある。関係課や交通事業者等にヒアリングをしながら、今後10年間の取組みを考えたい。

(副委員長)

- ・タイミング的にはもう少し後でもいいと思う。できないものは、理由をこの場で共有して、それに代わるものを考えていく必要がある。

(委員長)

- ・△、ーについては、内容を精査していく必要がある。また、今年度末に名豊バイパスが開通し、豊橋市内を通過する車の流れが変わってくると思うが、そうすると交通量に余裕がでてくると思う。その中で優先レーンの可能性も考えていただきたい。

(委員)

- ・p.5の災害への対応について、災害時には公共交通としてどう対応していくのか。特に、線状降水帯への対応は現在一番懸念されている。どこまで公共交通機関が運行可能かまたは運行停止しなければならないのか情報共有の仕組みを構築して頂きたい。豪雨時には、鉄道、バスは計画運休の運用を行っているため、タクシーは最後の手段として期待される。一方で、従業員の安全を守る義務がある。行政としてタクシーも運行停止とする基準を作り、各交通手段の基準と運行状況を情報共有できる仕組みを検討いただきたい。

(事務局)

- ・突然の災害については、公共交通の役割を考えた時に市民の移動手段の確保が重要であり、計画への反映方法も含め検討したい。

(委員)

- ・災害時には柔軟な交通圏の運用等を検討して頂きたい。

(委員)

- ・事案等を鑑みリスク対応について検討していきたい。

(委員長)

- ・公共交通計画への位置付けとは異なるが、運輸局、支局で災害時のリスク対応として検討いただきたい。この計画にも災害リスクへの対応を加えることを検討すべきである。

(委員)

- ・災害における運行情報は、当社HPにて、列車ごとの走行位置や運行再開見込などが見られるようになっている。次回委員会で、資料をもって情報提供する。

(委員)

- ・p.5まとめて「地域との連携」について、地域とは、住民以外に企業や事業者などもいる。p.4の「交流促進」について豊橋市、湖西市、デンソーの送迎車両による共同輸送も報告されており、とてもいい取組だと思う。こういう取組が広がればと思う。例えば、明海など臨海部は共同輸送することで、渋滞対策や渥美線の利用者増にもつながるかと思うので行政、事業者が連携してより良い交通体系を検討して頂ければと思う。

(委員長)

- ・p.5 市民の健康増進で自転車活用の推進について、具体的にはどのような取組を行ったのか。

(事務局)

- ・自転車に乗ることが健康につながるなどの情報発信を行い、啓発を行っている。また、豊橋市では、公共交通も含めエコ通勤の一環として利用促進を行っている。

(委員長)

- ・他の部分も含めて、主な取組内容が分かるように記載していただきたい。

(5) 市民アンケート調査実施概要(案)について

- ・事務局より、【資料5 市民アンケート調査実施概要(案)】の説明が行われた。

[質疑等]

(委員)

- ・利用しやすさやサービス水準といった表現があるが、前段で松本委員長の発言にあった、満足度に引っ張られることのない調査票にしていきたい。

(委員長)

- ・前回と比較して確認すべき項目もあるかと思う。自分が関係している自治体では、「困っていること」を聞くようお願いしている。日々の生活で移動に困っている人に対して、移動サービスを提供する必要がある、地区ごとや年齢ごとに把握すると良いと考える。

(副委員長)

- ・どの地区で何に取り組むべきかの検討につなげるためには、単純に不満を聞くのではなく、不満を抱く理由を聞く必要がある。
- ・1世帯4人ということだが、世帯票1枚と別で個人票を考えているか。

世帯に関することも全ての調査票に含まれているのか。

- また、路面電車の評価についての設問は、市民アンケートに含まれるか。

(事務局)

- 世帯票1枚と別で個人票を考えている。想定では、1世帯あたり4名分あれば回答を集められるかと思っている。1世帯に何名までを回答可能とするかも含め、あらためて、検討していきたい。
- 路面電車の価値評価については、市民アンケートに含めるか検討している。

(副委員長)

- 路面電車の評価も一体的にやると効率的だが、回答率や負担感も含め検討いただきたい。
- 1世帯あたり最大4人程対象とした方が、高齢者や子ども世代の回答も取れると思うのでアンケート設計を検討すると良い。

(委員長)

- 1世帯で複数サンプルを得ることで、その世帯に依存したデータとなり偏りが生じる懸念がある。1世帯で複数サンプルとする意図は何か。回収数を増やしたいのか、杉木先生が言われたとおりバラエティにとんだサンプルが欲しいのか。

(事務局)

- 限られた予算の中で、必要なサンプル数を確保したい。幅広くとるのかターゲットを絞ってとるのか、検討していきたい。

(委員長)

- 偏りができると良くないので、通常は、年齢別あるいは地区別にサンプル率を設定し、どれくらい配布するか決定する。世帯で偏ってしまうとアンケートの信頼性に関わるため、集計では同世帯の中でも分けるなど考慮する必要がある。サンプル数だけのために同世帯で多数とると偏りが出ってしまうため、留意いただきたい。

(委員)

- 420町の自治会に会長を通じてアンケートを取ることで、地区の特性が把握できると思う。

(委員長)

- 集計の単位はどのように考えているのか。

(事務局)

- 小学校区単位で考えている。

(委員長)

- 自治会長から協力が得られるのであれば、地域協働という視点で重要な意見が得られる可能性がある。地域とともに取り組むというのはとても良いと考える。
- 新しい施策について意見を伺うということも考えられるが、まだ定まっていないということか。

(事務局)

- 定まっていない。

(委員長)

- 条例に関する設問は興味深い。どのような結果になるか楽しみである。
- 最後に、利用者の視点で、計画改定に向けた期待を一言ずつお願いしたい。

(委員)

- 地域の方々が利用しやすい地域公共交通につながる計画にしていきたい。私は多米校区で周辺を運行している飯村岩崎線の利用が少ないということで廃止されないように利用促進を図っているところであり、これを機に勉強していきたい。

(委員)

- 障害者は自動車を運転できないケースも多く、公共交通機関を頼ることになる。路線が廃止されると困る立場の人も多いので、ぜひ利用しやすい交通をお願いしたい。

(委員)

- 中心市街地の商店街については、マイカーの普及により緩やかに衰退している。車との付き合い方が大きな課題だと考えている。新しいモータリゼーションの中で、未来に向けて、視野を広げて取り組んでいただきたい。商店街も車にフィットした商店街を形成しないといけないと思っている。また、シェアリング、電気自動車、自動運転は今後10年で発展すると思うし都市が縮小する中で、どのように公共交通が撤退していくかという話もあると考えている。

(委員)

- 高齢者の中では、車を手放さないといけないタイミングが来るが、人に頼って移動することもなかなか難しい。自分の住む地域では乗合タクシーもあり、上手く活用する必要があると感じている。

(委員)

- つい最近柿の里バスに乗車したが、その他は利用者と言えるほど公共交通は利用しておらず、車社会の中で色々と考えていきたい。
- 条例の認識はあったが、あらためて確認してみたい。

(委員長)

- 誰一人取り残さないことは、公共交通にとって非常に重要なテーマとあらためて感じた。
- バリアフリーの視点、新しいモータリゼーションへの対応、少量輸送の視点など、地域の方々と作り上げていく計画になるだろうと実感した。

(5) その他

- 特になし。

以上